

4. 小学校・中学校・高等学校調査結果の校種間比較

- キャリア教育の推進について、担任の認識は前回調査(中 35.0%、高 40.0%)と比べ大幅に向上し、小・中・高とも「知っていた」と回答した担任は97%を超えている。しかし、いずれの学校種においても保護者の認識は低く、各学校でのキャリア教育実践の更なる充実とともに保護者への積極的な情報提供が課題である。(→(1))
- ほとんどの中・高がキャリア教育の担当者を配置しており、小でも配置率は8割を超えている。一方、キャリア教育のみを担当している者は、小・中で5%以下、高で約1割にとどまっており、ほかの担当と兼任している場合がほとんどである。(→(2))
- 多くの中・高がキャリア教育の指導計画を作成しているが、小での作成率は相対的に低い。小・中・高ともに、育てたい力の具体化、教育活動全体を通じた系統的な実践、キャリア教育の評価等については課題を残しており、指導計画の改善・充実を図る必要がある。(→(2))
- 中・高の保護者・卒業者ともに、職場体験活動・就業体験の効果を高く評価している。とりわけ高等学校における就業体験の充実が喫緊の課題である(→(3))
- 小・中・高ともに、基礎的・汎用的能力のうち「課題対応能力」の向上を促す実践に弱さを残しているが、保護者は「課題対応能力」を含め幅広い能力の向上を期待している。(→(4))
- 学校、担任ともキャリア教育の評価を余り重視していない。キャリア教育の効果を検証し、その結果を踏まえて、取組の改善を図るためにも、評価の実施は重要な課題である。(→(5))
- 全ての学校種に共通して、充実したキャリア教育の計画を作成し、それらを適切に実践していくことが、児童生徒の学習意欲を向上させる可能性が強く示唆された。(→トピックス)

(1) キャリア教育の推進に関する認識

キャリア教育の推進に関する担任調査を見ると、小学校・中学校・高等学校ともに、キャリア教育の推進が求められていることを「知っていた」教員が76%を超えている。「何となく知っていた」まで含めると、どの校種においても97%を超えている(表1)。前回調査(平成17年)では、中学校35.0%、高等学校40.0%にとどまっていたことと比較すると、キャリア教育の推進についての認識が着実に進んでいる様子が見える(表2)。今後の各校種における計画の立案、実践、評価など、取組の質的深化が期待される。

一方、保護者調査では、「キャリア教育」という言葉を知っているかの問いに、「聞いたことがある」と答えた保護者は、いずれの校種においても20~30%台にとどまっている(表3)。各学校におけるキャリア教育の一層の充実とともに、保護者に対する積極的な情報の提供や共通理解の促進のための工夫が必要である。

【表1】キャリア教育の推進が求められていることについて御存じでしたか [担任調査]

	小学校	中学校	高等学校
1 知っていた	76.9%	76.8%	76.1%
2 何となく知っていた	20.1%	21.4%	21.3%
3 知らなかった	3.0%	1.8%	2.6%

【表2】キャリア教育の推進が求められていることについて御存じでしたか〔《前回調査》担任調査〕

		小学校	中学校	高等学校
1	はい	/	35.0%	40.0%
2	いいえ		65.0%	60.0%

【表3】「キャリア教育」という言葉を聞いたことがありますか〔保護者調査〕

		小学校	中学校	高等学校
1	聞いたことがある	26.4%	30.0%	34.7%
2	聞いたことがない	73.6%	70.0%	65.3%

(2) キャリア教育の組織と計画

① 組織

キャリア教育を進める校務分掌上の担当者の状況を見てみると、中学校では「キャリア教育のみを担当」「ほかの担当と兼任」の二つの合計が98.0%であり、ほとんどの学校に置かれていることがわかる。高等学校でも同様に97.2%と高い。今回初めて調査を行った小学校においても合計83.9%と、担当者を置いている学校が多いことがわかった。しかし、キャリア教育のみを担当している割合は、小学校で1.5%、中学校で4.6%、高等学校で9.1%にとどまっている(表4)。また、その在任期間は、小学校・中学校ともに、「1年目」が約40%を占めており、系統的・体系的な実践の拡充に向けて、在任期間の複数年化などの改善努力が望まれる(表5)。

【表4】キャリア教育の企画や全体計画等の作成を中心となって進める担当者の方は、校務分掌上、次のいずれに該当しますか〔学校調査〕

		小学校	中学校	高等学校
1	キャリア教育のみを担当している	1.5%	4.6%	9.1%
2	ほかの担当と兼任している	82.4%	93.4%	88.1%
3	担当者はいない	16.1%	2.0%	2.8%

【表5】キャリア教育に関わる担当者の現任校における当該担当者としての在任期間について、当てはまるものを一つ選んでください〔学校調査〕

		小学校	中学校	高等学校
1	1年目	41.9%	41.5%	23.0%
2	2年目～3年目	34.6%	34.0%	43.0%
3	4年目～5年目	14.6%	14.5%	17.1%
4	6年目以上	8.9%	10.0%	16.9%

② 計画

キャリア教育に取り組む上で不可欠な諸計画の作成状況を見てみると、小学校では、「全体計画がある」とした学校は63.4%(表6)、「年間指導計画がある」とした学校は46.7%にとどまっており(表8)、中学校・高等学校と比較して明らかに低い。キャリア教育の推進に関する認知が進む一方で、それが計画の立案など具体的な取組に結びついていない様子がうかがえる。しかし、「全体計画がある」とした小学校では、「児童生徒の実態」「保護者や地域の実態・願い」「教師の願い」「学校課題や重点目標」「キャリア教育の全体目標」を具体的に記している割合が、いずれも中学校・高等学校を上回っている(表7)。また、「年間指導計画がある」とした小学校では、「道徳におけるキャリア教育」「総合的な学習の時間におけるキャリア教育」「各教科におけるキャリア教育」の内容を含む割合が他校種よりも高い(表9)。計画を立案した小学校では、

他校種よりもむしろ丁寧な取組が進められる可能性がある。

一方、小学校においては、「キャリア教育の現状について、全校的な立場から『そのとおりである』と思うもの」のほとんどの項目について、肯定的な回答の割合が中学校・高等学校より少ない。キャリア教育の目的や意義、取組方法について、一層の理解を求めていく必要がある（表 11）。

中学校・高等学校では、「全体計画がある」とした学校は、それぞれ 81.3%、70.4%（表 6）、「年間指導計画がある」とした学校は 76.7%、80.4%といずれも高い（表 8）。「全体計画がある」とした学校に、具体的な内容を問うと、「各学年の重点目標が記されている」とした学校は、それぞれ 85.0%、75.0%と高いにもかかわらず（表 7）、年間指導計画の内容に「各教科におけるキャリア教育」が含まれるとした学校は、それぞれ 32%程度と低くなる。一方で、「キャリア教育に関わる体験的な学習」が含まれているとした学校は、それぞれ 87.4%、89.8%と高いことは特筆に値しよう（表 9）。現在、中学校・高等学校においては、体験的活動に重点が置かれる傾向が見られるが、今後は教育活動全体を通じたキャリア教育の実践へと転換していく必要がある。

また、小学校・中学校・高等学校に共通して、「キャリア教育の計画を立てる上で重視したことがら」では、「児童生徒が、学年末や卒業時まで『○○ができるようになる』など、具体的な目標を立てること」や「キャリア教育で育てる力と基礎的・汎用的能力との関連を整理すること」「取組の改善につながる評価を実施すること」が十分になされていない状況が示された（表 10）。今後の改善が期待される。

【表 6】 貴校には、キャリア教育の全体計画はありますか [学校調査]

		小学校	中学校	高等学校
1	計画がある	63.4%	81.3%	70.4%
2	計画はない	36.6%	18.7%	29.6%

【表 7】 全体計画には、以下の内容が具体的に記されていますか [学校調査]

	小学校	中学校	高等学校
児童生徒の実態	60.2%	54.0%	45.6%
保護者や地域の実態・願い	50.2%	43.5%	29.1%
教師の願い	49.1%	42.5%	32.7%
学校課題や重点目標	80.0%	75.0%	75.8%
キャリア教育の全体目標	92.0%	86.8%	81.8%
各学年の重点目標	79.5%	85.0%	75.0%
学校全体で身に付けさせたい能力や態度（基礎的・汎用的能力との関係）	77.3%	73.3%	77.3%
各学年で身に付けさせたい力（基礎的・汎用的能力との関係）	66.7%	61.0%	65.3%
キャリア教育の成果に関する評価計画（キャリア教育アンケートやポートフォリオ等）	8.2%	11.5%	20.7%
上記に該当するものはない	0.2%	0.3%	0.9%

【表 8】 貴校には、キャリア教育の年間指導計画はありますか [学校調査]

		小学校	中学校	高等学校
1	計画がある	46.7%	76.7%	80.4%
2	計画はない	53.3%	23.3%	19.6%

【表 9】年間指導計画には、以下の内容が含まれていますか [学校調査]

	小学校	中学校	高等学校
学級活動・ホームルーム活動におけるキャリア教育	80.2%	83.2%	79.8%
道徳におけるキャリア教育	65.4%	46.8%	—
総合的な学習の時間におけるキャリア教育	92.3%	89.8%	82.9%
各教科におけるキャリア教育	72.2%	32.4%	32.0%
キャリア・カウンセリング（進路相談）（全児童生徒を対象にした進学や就職等に関する相談）	5.7%	55.9%	61.6%
キャリア教育に関わる体験的な学習	74.9%	87.4%	89.8%
上記に該当するものはない	0.0%	0.0%	0.0%

【表 10】貴校が平成 24 年度のキャリア教育の計画を立てる上で、重視したことがらはどれですか

[学校調査]

	小学校	中学校	高等学校
児童生徒の実態や学校の特色、地域の実態を把握し計画に反映させること	59.5%	65.9%	74.0%
児童生徒が、学年末や卒業時まで「〇〇ができるようになる」など、具体的な目標を立てること	24.2%	27.5%	30.3%
発達の段階に応じたキャリア教育の実践が行われるようにすること	58.6%	68.1%	51.4%
貴校のキャリア教育で育てる力と基礎的・汎用的能力との関連を整理すること	25.9%	27.7%	28.1%
様々な教科や領域・行事等、教育課程全体を通したキャリア教育が行われるようにすること	62.3%	53.1%	49.9%
現在の学びと将来の進路との関連を生徒に意識付けること	31.8%	62.6%	72.3%
取組の改善につながる評価を実施すること	7.4%	13.7%	16.6%
社会人による講話など、職業や就労に関わる体験活動を充実させること	38.8%	89.3%	75.8%
上級学校に関わる体験活動を取り入れること	31.4%	75.2%	71.6%
体験活動において、事前指導・事後指導を重視すること	26.1%	86.5%	54.6%
保護者や地域、外部団体との連携を図ること	40.4%	56.4%	52.5%
個人資料に基づき生徒理解を深めることや生徒に正しい自己理解を得させること	—	33.7%	43.0%
生徒に進路に関する情報を得させる活動を取り入れること	—	60.0%	68.3%
キャリア・カウンセリング（進路相談）を取り入れること	2.2%	49.9%	48.1%
具体的な進路（就職先や進学先等）の選択や決定に関する指導・援助を行うこと	—	67.9%	81.1%
卒業生への追指導を行うこと	—	5.9%	11.8%
上記に該当するものはない	0.5%	0.0%	0.0%
本校ではキャリア教育に関する計画がないので、回答できない	13.9%	2.6%	2.9%

【表 11】 貴校におけるキャリア教育の現状について、全校的な立場から「そのとおりである」と思うものを全て選んでください [学校調査]

	小学校	中学校	高等学校
キャリア教育の計画の作成に当たっては、ガイダンスの機能の充実を図るよう工夫している	—	48.9%	61.1%
キャリア教育の諸計画は、計画どおり実施されている	39.9%	56.3%	59.9%
キャリア教育に関する担当者を中心とする校務分掌組織が確立され、機能している	24.1%	48.7%	51.5%
教員はキャリア教育に関して理解し、協力している	44.8%	63.1%	62.4%
教員はキャリア教育に関する研修などに積極的に参加し、指導力の向上に努めている	16.3%	20.2%	27.8%
教員は指導案の作成や教材の工夫に努めている	23.2%	28.1%	29.3%
教員はキャリア教育に関する情報を収集し、活用している	23.5%	43.9%	45.3%
社会人による講話など、キャリア教育に関わる体験的学習を実施している	83.4%	97.8%	81.5%
キャリア教育を実施するための時間は確保されている	44.2%	73.5%	64.5%
キャリア教育のための予算は確保されている	14.5%	36.5%	34.2%
保護者は学校のキャリア教育に関して理解し、協力している	25.8%	53.7%	44.3%
キャリア教育に当たって、社会人などの参画・協力を得ている	43.5%	57.5%	63.3%
キャリア教育の計画の実施について評価を行っている	17.9%	37.7%	33.1%
キャリア教育の実践によって、児童生徒が自らの生き方を考えるきっかけになり得ている	55.7%	79.2%	76.1%
キャリア教育の実践によって、学習全般に対する生徒の意欲が向上してきている	24.2%	37.3%	48.6%
キャリア教育の実践によって、学校や地域の課題解決に向かっている	12.3%	20.2%	22.9%
上記に該当するものはない	5.8%	0.4%	0.6%

(3) 職場体験活動と就業体験（インターンシップ）の実態と評価

小学校については、「(2) キャリア教育の組織と計画」で示した学校調査「キャリア教育の計画を立てる上で、重視したことがら（表 10）」において、「社会人による講話など、職業や就労に関わる体験活動を充実させること」「上級学校に関わる体験活動を取り入れること」「体験活動において、事前指導・事後指導を重視すること」など、体験的な活動に関わる項目についての割合が、中学校・高等学校と比較して著しく低い。小学校においては、これまで取り組んできた様々な体験活動をキャリア教育の視点から捉え直し、それらをキャリア教育の指導計画に位置付けることに加え、それぞれの学校における児童の実態に即しつつ、キャリア教育に関する体験的な活動の充実を図る工夫が求められる。

次に、中学校・高等学校について、職場体験活動や就業体験（インターンシップ）に関する項目を抽出し詳細に比較する。

「職場体験・就業体験（インターンシップ）に当てる時間」は、中学校・高等学校ともに、第1学年・第3学年では、「零日」が70～80%を占めている。取組の中心である第2学年を見てみると、「2日」以上の中学校は78.5%であるのに対して、高等学校では51.8%と低い（表 12）。学校調査における「キャリア教育を適切に行う上で、今後重要になると思うこと」では、「キャリア教育に関わる体験活動を実施すること」に、「とても重要だと思う」と回答した割合は、中学校72.9%に対して、高等学校は46.2%にとどまっている。また、「体験的活動では、事前指導・事後指導を重視すること」に、「とても重要だと思う」と回答した割合は、中学校74.3%に対して、高等学校では

53.8%にとどまった（表 13）。中学校と比較すると、高等学校の体験的な活動の実施状況及びその拡充に向けた意識は低い。担任調査における「キャリア教育を適切に行う上で、今後重要になると思うこと」での、「社会人の講話など、キャリア教育に関わる体験的な学習の充実」「社会人による講話など、キャリア教育に関わる体験的学習の事前・事後指導の充実」でも同様の傾向が見られる（表 14）。

生徒調査において、「自分の将来の生き方や進路を考える上で役立ったもの」として、職場での体験活動・就業体験（インターンシップ）が「役に立った」「少しは役に立った」と回答した生徒は、中学校では合計 88.6%と高いが、高等学校では合計 78.8%と若干低い（表 15）。一方、卒業生調査において、「職場体験・就業体験（インターンシップ）を経験して、どんな感想を持ちましたか」という質問に、「有意義な学習だと思う」と回答した者は、中学校では 87.4%、高等学校でも 82.0%といずれも高い（表 17）。また、高校在学中に実施してほしい体験活動を問う設問に対して、最も多くの卒業生（41.4%）が職場体験・就業体験（インターンシップ）を挙げていることから（表 18）、これらの体験活動は生徒にとって大きな意味をもつ学習であると言える。また、保護者調査において、「学校で職業に関する学習、職場体験・就業体験を経験することについて、どう思いますか」という質問に、中学校では 90.3%が「有意義な学習だと思う」と回答している。高等学校では 78.5%にとどまっているが、就業体験（インターンシップ）の実施率自体が中学校より低いことを踏まえれば、高校生の保護者の期待度も高いと言えよう（表 16）。

これらのことから、高等学校における就業体験（インターンシップ）の充実喫緊の課題であると言える。

【表 12】「職場体験・就業体験（インターンシップ）」に当てる時間は、平成 24 年度の年間指導計画にどのくらい位置付けられていますか〔学校調査〕

第 1 学年	中学校	高等学校
0 日	80.5%	71.0%
第 2 学年	中学校	高等学校
0 日	10.5%	39.2%
1 日	10.9%	9.0%
2 日	24.4%	36.9%
3 日	32.7%	
4 日	6.3%	11.8%
5 日	13.7%	
6～10 日	1.4%	1.7%
11～29 日		1.1%
30 日以上		0.3%
第 3 学年	中学校	高等学校
0 日	79.8%	76.5%

【表 13】貴校がキャリア教育を適切に行っていく上で、今後どのようなことが重要になると思われますか
 [学校調査]

キャリア教育に関わる体験活動を実施すること		小学校	中学校	高等学校
1	とても重要だと思う	51.6%	72.9%	46.2%
2	ある程度重要だと思う	46.1%	25.9%	46.8%
3	余り重要だとは思わない	2.3%	1.2%	6.6%
4	重要だとは思わない	0.0%	0.0%	0.4%

体験的活動では、事前指導・事後指導を重視すること		小学校	中学校	高等学校
1	とても重要だと思う	47.6%	74.3%	53.8%
2	ある程度重要だと思う	48.3%	24.3%	40.0%
3	余り重要だとは思わない	4.0%	1.4%	5.4%
4	重要だとは思わない	0.0%	0.0%	0.8%

【表 14】キャリア教育を適切に行っていく上で、今後どのようなことが重要になると思われますか
 [担任調査]

社会人による講話など、キャリア教育に関わる体験的な学習の充実		小学校	中学校	高等学校
1	とても重要だと思う	54.9%	62.5%	46.3%
2	ある程度重要だと思う	41.0%	34.4%	45.4%
3	余り重要だとは思わない	3.4%	3.0%	7.2%
4	重要だとは思わない	0.7%	0.1%	1.1%

社会人による講話など、キャリア教育に関わる体験的な学習の事前・事後指導の充実		小学校	中学校	高等学校
1	とても重要だと思う	49.0%	60.6%	41.4%
2	ある程度重要だと思う	45.9%	37.1%	49.2%
3	余り重要だとは思わない	4.4%	2.1%	8.2%
4	重要だとは思わない	0.7%	0.1%	1.1%

【表 15】自分の将来の生き方や進路を考える上で、役に立ったものはどれですか [生徒調査] (「そのような指導はなかった」を選択した回答を除いた割合)

職場での体験活動・就業体験 (インターンシップ)		中学校	高等学校
1	役に立った	(52.9%)	(40.1%)
2	少しは役に立った	(35.7%)	(38.7%)
3	役に立たなかった	(11.5%)	(21.2%)

【表 16】あなたのお子さんが、学校で職業に関する学習、職場体験・就業体験を経験することについて、どう思いますか [保護者調査]

		小学校	中学校	高等学校
1	有意義な学習だと思う	90.5%	90.3%	78.5%
2	有意義な学習だとは思わない	1.3%	2.5%	4.1%
3	どちらともいえない	8.2%	7.2%	17.3%

【表 17】あなたは、職場体験・就業体験を経験して、どんな感想を持ちましたか [卒業生調査]

		中学校	高等学校
1	有意義な学習だと思う	87.4%	82.0%
2	有意義な学習だとは思わない	4.1%	5.7%
3	どちらともいえない	8.5%	12.3%

【表 18】あなたは、在学中、自分の将来の生き方や進路について考えるため、どのような体験活動を実施してほしかったですか [卒業生調査]

		中学校	高等学校
職場体験・就業体験(インターンシップ)		29.5%	41.4%

(4) 基礎的・汎用的能力に関する指導

「(2) キャリア教育の組織と計画」で示した学校調査「キャリア教育の計画を立てるうえで、重視したことがら(表10)」において、「キャリア教育で育てる力と基礎的・汎用的能力との関連を整理すること」を選択した割合は、小学校で25.9%、中学校で27.7%、高等学校で28.1%と低かった。また、当該事項を今後の重要課題として認識する学校は、各校種とも3割台にとどまっている(表19)。基礎的・汎用的能力についての正しい理解を深めるための研修機会の充実が必要である。

学校調査において、「基礎的・汎用的能力に関する指導を実施した学年」では、小学校低学年における「課題対応能力」、低学年及び中学年における「キャリアプランニング能力」の割合が著しく低い。「キャリアプランニング能力」に関わる指導については、小学校の高学年で充実が図られており、これは児童の発達の段階を考慮した結果ととらえることができる。しかしながら、「課題対応能力」に関する指導の実施の割合が、全ての学校種において相対的に低いことは特徴的な結果であった(表20)。情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案などの「課題対応能力」に関わる力は、学校種を問わず日常の教育活動を通して向上させることができ、既に大多数の学校で多様な実践がなされているはずである。これらの取組がキャリア教育としても重要な意義を有するという基本的な認識が、広く共有されていないと言えるのではなからうか。

次に、担任調査における「指導の重点」、児童生徒調査における「日常生活で当てはまるもの」、保護者調査における「指導してほしいこと」の三つの問いに対する回答に注目して見る(表21)。これらの質問項目の①～③が「人間関係形成・社会形成能力」、④～⑥が「自己理解・自己管理能力」、⑦～⑨が「課題対応能力」、⑩～⑫が「キャリアプランニング能力」に対応している。担任調査では、小学校では「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」、中学校、高等学校では「課題対応能力」に関する項目において、「よく指導している」割合が低く、児童生徒調査でも「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」に関する項目がほかの項目に比べて低くなっている。一方、保護者調査における「重点を置いて指導してほしい」項目は、四つの能力に関する偏りは余り見られない。今後「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」に関する指導、とりわけ「課題対応能力」を育む取組の一層の充実が期待される。

小学校の「トピックス」でも触れたとおり、今後の活性化が期待される「課題対応能力」の向上を目指した取組については、「基礎的・汎用的能力」が提唱されるまで、キャリア教育において必ずしも重視されてこなかった。いわゆる「4領域8能力」から「基礎的・汎用的能力」への転換の過渡期とも言える今日、「課題対応能力」の正しい理解の確立を図ることは喫緊の課題の一つと言えよう。

【表19】貴校がキャリア教育を適切に行っていく上で、今後どのようなことが重要になると思われますか
[学校調査]

貴校のキャリア教育で育てる力と基礎的・汎用的能力との関連を整理すること	小学校	中学校	高等学校
とても重要だと思う	33.8%	31.0%	35.5%

【表 20】平成 24 年度において「基礎的・汎用的能力」に関する指導を実施した学年を全て選んでください [学校調査]

※下段は平均を示している

	小学校			中学校			高等学校		
	低学年	中学年	高学年	1 年	2 年	3 年	1 年	2 年	3 年
「人間関係形成・社会形成能力」の育成に関する授業・指導	88.4%	90.9%	94.0%	93.3%	92.3%	88.1%	89.5%	79.1%	70.0%
	91.1%			91.2%			79.5%		
「自己理解・自己管理能力」の育成に関する授業・指導	74.8%	87.7%	92.1%	87.8%	87.8%	82.4%	87.4%	79.4%	64.8%
	84.9%			86.0%			77.2%		
「課題対応能力」の育成に関する授業・指導	33.5%	67.2%	93.4%	67.1%	83.3%	86.9%	56.8%	73.7%	79.2%
	64.7%			79.1%			69.9%		
「キャリアプランニング能力」の育成に関する授業・指導	23.2%	38.5%	87.7%	70.2%	83.9%	89.5%	74.3%	79.4%	81.8%
	49.8%			81.2%			78.5%		

【表 21】

キャリア教育を行う上で、特にどのようなことに重点を置いて指導していますか [担任調査]

自分の日常生活の様子をふり返ったとき、当てはまるものを選んでください [児童生徒調査]

学校における授業や生活で、以下のことがらについてどの程度指導してほしいですか [保護者調査]

右記のとおり 回答した割合(%)	担任「よく指導している」			児童生徒「いつもそうしている」			保護者「重点を置いて指導してほしい」		
	小	中	高	小	中	高	小	中	高
①様々な立場や考えの相手に対して、その意見を聴き理解しようとする	54.7	40.5	38.4	41.9	52.1	59.1	62.8	58.3	52.9
②相手が理解しやすいように、自分の考えや気持ちを整理して伝える	44.1	29.9	33.0	51.6	41.1	45.0	70.2	61.4	56.5
③自分の果たすべき役割や分担を考え、周囲の人と力を合わせて行動しようとする	67.9	61.8	44.8	42.7	49.0	50.7	70.2	65.1	57.3
④自分の興味や関心、長所や短所などについて把握し、自分らしさを発揮すること	32.6	34.9	32.8	46.8	49.1	38.3	52.0	51.6	46.1
⑤喜怒哀楽の感情に流されず、自分の行動を適切に律して取り組もうとする	36.9	33.2	31.2	46.5	28.4	32.7	36.1	40.3	36.3
⑥不得意なことや苦手なことでも、自分の成長のために進んで取り組もうとする	55.5	42.2	36.5	32.7	20.6	19.7	51.6	55.1	45.9
⑦調べたいことがあるとき、自ら進んで資料や情報を集め、必要な情報を取捨選択すること	32.3	18.4	30.5	36.4	33.0	39.9	57.7	53.9	50.7
⑧起きた問題の原因、解決すべき課題はどこにあり、どう解決するのかを工夫すること	27.6	16.6	16.5	48.3	29.8	37.6	61.1	57.8	53.9
⑨活動や学習を進める際、適切な計画を立てて進めたり、評価や改善を加えて実行したりすること	17.8	21.5	21.3	36.8	23.5	26.1	47.4	49.7	43.8
⑩学ぶことや働くことの意義について理解し、学校での学習と自分の将来をつなげて考えること	31.6	44.0	40.2	33.5	29.5	32.2	50.2	54.9	51.3
⑪自分の将来について具体的な目標をたて、現実を考えながらその実現のための方法を考えること	13.0	33.2	41.9	49.7	32.8	36.9	38.9	46.8	51.4
⑫自分の将来の目標の実現に向かって具体的に行動したり、その方法を工夫・改善したりすること	10.7	25.8	34.3	46.1	31.1	30.0	41.3	44.2	49.9

(5) キャリア教育の取組に関する評価

「(2) キャリア教育の組織と計画」で示した学校調査「キャリア教育の現状について、全校的な立場から『そのとおりである』と思うもの(表 11)」において、「キャリア教育の計画の実施について評価を行っている」を選択した割合は、小学校で 17.9%、中学校で 37.7%、高等学校で 33.1%と低く、取組の評価が余り行われていない実態が示された。以下、キャリア教育の取組の改善につながる「評価」に関する項目を抽出し、その特徴を整理する。

学校調査において、「キャリア教育を行う上で、今後どのようなことが重要になると思いますか」では、「児童生徒の実態や学校の特色、地域の実態を反映させた計画の立案をすること」が「とても重要だと思う」との回答は、小学校で 70.8%、中学校で 67.5%、高等学校で 72.0%に上っている。ところが、実態把握をする上で不可欠な評価については、「取組の改善につながる評価を実施すること」を「とても重要だと思う」との回答は、小学校で 31.2%、中学校で 39.2%、高等学校で 35.4%と低くなっている(表 22)。評価の重要性・必要性の認識は、必ずしも十分とは言えない。

また、担任調査では、「困ったり悩んだりしていること」として、「キャリア教育の計画・実施について評価の仕方がわからない」をあげている教員が小学校 33.2%、中学校 34.9%、高等学校 31.0%である(表 23)。前回調査(平成 17 年)では、同じ質問に対する回答が、中学校で 8.3%、高等学校で 5.5%であったことを踏まえれば、キャリア教育の評価への関心が高まってきたと同時に、その方途に悩む教員が大幅に増えたと言えよう(表 24)。しかし、担任調査「キャリア教育を行う上で、今後どのようなことが重要になると思いますか」では、「キャリア教育の成果に関する評価」を「とても重要だと思う」とした教員は、小学校で 22.7%、中学校で 24.0%、高等学校で 18.2%と低い(表 25)。キャリア教育の評価方法をめぐる困惑が高まってはいるものの、キャリア教育実践の評価が重要な課題として認識されるには至っていないと考えられる。前述の「困ったり悩んだりしていること」で、「評価に基づいたキャリア教育の計画や実践に関する改善がなされない」が、小学校で 8.1%、中学校で 11.4%、高等学校で 9.3%にとどまっていることも、評価の意義への認識が不十分であることの一端を示す結果であろう。

キャリア教育への取組を通して児童生徒にどのような成長や変容が表れたかを、地域や学校の特色、児童生徒の実態に応じた評価指標などによって検証することは、極めて重要なことである。その結果を踏まえて取組の改善につなげる PDCA サイクルを確立することで、取組の働きかけや目的がより明確になり更なる成果につながる。キャリア教育に関する評価への取組の強化は、今後の重要な課題であると言える。

学校調査において、「キャリア教育の現状について、全校的な立場から『そのとおりである』と思うもの」として、「キャリア教育の実践によって、学校や地域の課題解決に向かっている」を選択した学校が、小学校で 12.3%、中学校で 20.2%、高等学校で 22.9%にとどまっていることは、評価自体が不十分にとどまっているゆえに、実践の成果や残された課題を踏まえた取組の改善が十分に図られていない現状を浮き彫りにした結果と言えるのではないだろうか(表 26)。

【表 22】 貴校がキャリア教育を適切に行っていく上で、今後どのようなことが重要になると思われますか
 [学校調査]

児童生徒の実態や学校の特色、地域の実態を反映させた計画の立案をすること		小学校	中学校	高等学校
1	とても重要だと思う	70.8%	67.5%	72.0%
2	ある程度重要だと思う	28.3%	31.5%	26.7%
3	余り重要だとは思わない	0.7%	0.8%	1.2%
4	重要だとは思わない	0.2%	0.2%	0.1%

取組の改善につながる評価を実施すること		小学校	中学校	高等学校
1	とても重要だと思う	31.2%	39.2%	35.4%
2	ある程度重要だと思う	62.3%	56.8%	58.0%
3	余り重要だとは思わない	6.2%	3.8%	6.2%
4	重要だとは思わない	0.3%	0.2%	0.4%

【表 23】 キャリア教育について、あなた自身が困ったり悩んだりしていることを全て選んでください

	小学校	中学校	高等学校
キャリア教育の計画・実施についての評価の仕方がわからない	33.2%	34.9%	31.0%
評価に基づいたキャリア教育の計画や実践に関する改善がなされない	8.1%	11.4%	9.3%

【表 24】 進路指導について、あなた自身の悩みとして当てはまるものを選んでください

【《前回調査》担任教員調査】

	小学校	中学校	高等学校
進路指導の計画・実施についての評価		8.3%	5.5%

【表 25】 キャリア教育を適切に行っていく上で、今後どのようなことが重要になると思われますか

[担任調査]

キャリア教育の成果に関する評価		小学校	中学校	高等学校
1	とても重要だと思う	22.7%	24.0%	18.2%
2	ある程度重要だと思う	58.5%	60.9%	56.2%
3	余り重要だとは思わない	16.3%	12.6%	20.9%
4	重要だとは思わない	2.5%	2.4%	4.7%

【表 26】 貴校におけるキャリア教育の現状について、全校的な立場から「そのとおりである」と思うものを全て選んでください [学校調査]

	小学校	中学校	高等学校
キャリア教育の実践によって、学校や地域の課題解決に向かって いる	12.3%	20.2%	22.9%

《トピックス》 充実したキャリア教育の計画・実践は学習意欲を向上させる

中学校「トピックス」において整理したように、新学習指導要領の改訂の方向性を示した中央教育審議会答申（平成20年1月）は、キャリア教育を通じた学習意欲の向上に強い期待を寄せている。また、文部科学事務次官通知（19文科初第1357号 [平成20年3月28日]、20文科初第1312号 [平成21年3月9日]）も、全ての学校種において、「教育課程の基準の改善の基本的な考え方」の一角に「キャリア教育などを通じ、学習意欲を向上するとともに、学習習慣の確立を図るものとしたこと」を位置付けている。

このようなキャリア教育への高い期待に鑑み、中学校「トピックス」では、①キャリア教育の全般的な実施状況別、②中学校段階のキャリア教育における実質的な中核

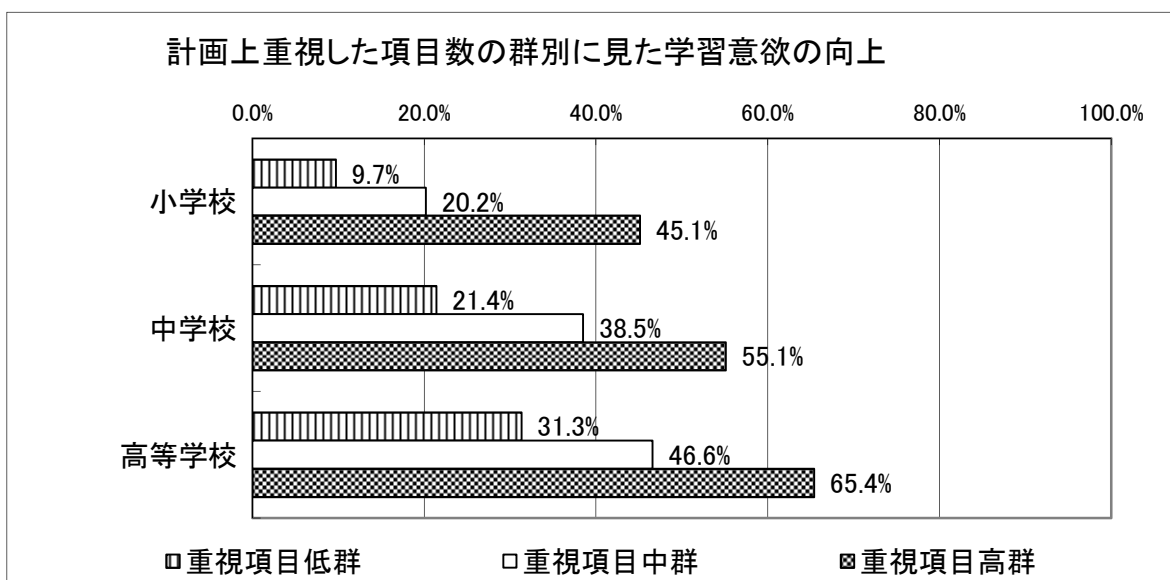
となっている職場体験活動の日数別の二つの視点から、生徒の学習意欲の向上（管理職による生徒の学習意欲向上の認識）に違いが見られるかどうかを明らかにした。

ここでは、学校種間で実践の在り方に差が大きい現状を考慮し、キャリア教育の指導計画の充実度に注目して、充実したキャリア教育の指導計画を有する学校とそうではない学校との間で、児童生徒の学習意欲の向上にどのような違いが見られるかを分析する。用いたデータは、いずれも学校調査の結果である。

今回の分析ではまず、「キャリア教育の計画を立てる上で重視したことがら」がどの程度あるかという設問に注目した。小学校（問 3(4)）・中学校（問 3(4)）・高等学校（問 4(4)）で共通する 12 項目をとりあげ、これらのうち重視している項目数の分布を考慮して、重視項目低群・重視項目中群・重視項目高群の 3 群に分けた。低群より中群、高群の方が計画段階で重視したり配慮したりする項目が多いということの意味することから、低群→中群→高群の順でキャリア教育の指導計画の充実度が高まるとみなすこととした。

次に「キャリア教育の実践によって、学習全般に対する児童（生徒）の意欲が向上してきている」（小学校：問 12(14)、中学校：問 13(15)、高等学校：問 15(15)）という設問をとりあげた。この設問で「当てはまる」と回答した学校の割合を前述の重視項目に関する 3 群別に示したのが下記のグラフである。

小学校・中学校・高等学校のいずれにおいても、充実したキャリア教育の指導計画を有する学校ほど、キャリア教育の実践による児童・生徒の学習意欲向上を認識している割合が高いことが明らかである。充実したキャリア教育の指導計画を有する学校では、さまざまな点を考慮しつつ、多くの取組を計画に位置付け、それを適切に実践した結果、教員から見た学習意欲の向上につながっていることを示唆するものと言えよう。



※キャリア教育の計画上重視することがらの集計で取り上げたのは、学校種に共通する 12 項目である。小学校では、重視項目低群(0～2 項目該当)が 26.4、中群(3～5 項目該当)が 46.3、高群(6～12 項目該当)は 27.3 であった。中学校の場合、低群(0～5 項目該当)32.0、中群(6～8 項目該当)42.6、高群(9～12 項目該当)25.4 である。高等学校は低群(0～4 項目該当)27.2、中群(5～7 項目該当)40.1、高群(8～12 項目該当)32.7 であった。

※ χ^2 検定の結果は次のとおりであった。小学校 $\chi^2(2)=96.105$ 、 $p<.001$ 、中学校 $\chi^2(2)=34.604$ 、 $p<.001$ 、高等学校 $\chi^2(2)=68.294$ 、 $p<.001$ 。